



経営者・従業員の為の 健康ひとくちメモ

(公財)福井県健康管理協会 臨床検査技師 棗 敦



大腸がん検診の質問・疑問

こんな時は？

大腸がん検診では、便の中に含まれる微量の出血を検査し、その原因を大腸内視鏡で調べます。しかし、「精密検査を受けたくない」との思いからの問い合わせが多いのも、大腸がん検診の特徴です。

- ① 「便潜血検査が『陽性』でした。でも、実は痔で…」
- ② 「『陽性』だったけど便潜血検査を、もう1回受けてみてもいい？」
- ③ 「大腸の精密検査は大変？」

毎年このような、質問・疑問を頂くことがよくあります。今回は、これらについて考えてみたいと思います。

①痔ですよね？

そうですね、痔のせいかもしれませんね…とりたいところですが、残念ながら便潜血検査では、その出血が痔によるものなのか、大腸の病気によるもの

なのかを区別することができません。そのため、痔以外の大腸の病気による出血を疑って、精密検査が必要となるのです。

②便潜血検査の もう1回は絶対ダメ

「調子がいい日に、便潜血検査をもう1回受けてみるでもいいですか？」と聞かれることもあります。確かに、次は陰性（異常なし）かもしれません。

しかし、もう1回、便潜血検査をした場合に、結果が陰性だったとしても、それは本当に陰性でしょうか。今回はそうでも、前回の出血の原因が何であつたかは分かりません。誤った判断は、逆に病気の発見を遅らせてしまう場合があります。365日のうちのたった2日の便です。そのうちの1日でも出血が認められれば、病気のサインかもしれません。

③大腸の精密検査は大変？

精密検査は大腸内視鏡検査と違って肛門からカメラを入れま

す。前日・当日の下剤で腸をキレイにした上でカメラを入れるのですから、手間がかかり、怖そう、痛そう、そして恥ずかしい検査であることは確かです。しかし、医師に直接腸の状態を確認してもらえ、精度の高い検査です。また、精密検査を受けなくておくと、受けた場合と比べて、死亡危険度のリスクが約4倍になるというデータもあります。

精度の高い検査を受けるチャンスだと思い、必ず精密検査を受けましょう。検診は精密検査を受けて、初めて「価値」があります。

40歳を過ぎたら検診を

アメリカでは、毎年3月が「大腸がん撲滅月間」です。大腸がん検診は手軽で有効性の高い検診です。40歳を過ぎたら毎年、便の検査を受けましょう。

